

第2回 毒作用研究会プログラム

日 時 昭和51年2月10日(火) 午前9時30分より

会 場 岐阜市六条 産業会館(Tel. 72-3921)

第1会場 文化ホール(2F)

第2会場 第1会議室(5F)

特別講演会場 文化ホール(2F)

評議員会会場 第5会議室(5F)

休憩室 文化ホールロビー(2F)、第2会議室(5F)

研究会事務局 第5会議室(5F)

第 一 会 場

重金属・水銀

9:30~10:40

座 長 酒 井 文 徳(東大・医・薬理)

上 田 喜 一(昭和大・歯・衛生)

- 101 水銀化合物の細胞膜透過性 ○中尾 真、太田英彦、原 諭吉、小松喜子、松本順二
(東京医歯大・医・生化学)
中尾順子、矢ヶ崎しげ子
(東京都・衛研)
- 102 水銀化合物による赤血球膜の形態変化 ○田中礼子、大宮彬男、中井健五
(秋田大・医・薬理)
- 103 イモリ腎に及ぼす水銀の作用 ○菊地英弥、遠藤 仁、木村康志、田所昌夫、酒井文徳(東大・医・薬理)
- 104 無菌マウスにおけるメチル水銀の排泄 ○三浦悌二、田村 弘、中村 泉、細川圭子 (帝京大・医・衛生)
- 105 メチル水銀の用量とラットの水俣病様の症状経過ならびに臓器内水銀蓄積量の関係について 増原泰三、○中村康則
(日歯大・新潟・薬理)

- 106 メチル水銀の光化学的分解 高橋 等、○渋谷陽子、福島良子
(熊大・医・中毒研・生化学)

休 憩

重金属・カドミウム

- 10:50~12:00 座 長 高 畠 英 伍 (公衆衛生院・衛生薬学)
野見山 一 生 (自治医大・衛生)
- 107 小腸刷子緑酵素に対するカドミウムの作用について 菅原直毅 (札医大・公衛)
- 108 実験的Cd中毒症の病理 ○河合清之、福田一男、京野洋子、木
村正己、鈴木康友 (労衛研)
- 109 カドミウムの細胞内分布とその細胞内呼吸におよぼ
す影響 ○道岡 攻、加美山茂利
(秋田大・医・衛生)
- 110 Calcium accumulationに及ぼすカドミウ
ムの影響について ○飯田正一、久田 洋、山崎 和
(北大・歯・薬理)
- 111 Cdの慢性毒性試験
1.繁殖マウスのCa代謝に与える影響 川端純一 (北海道・衛研)
- 112 カドミウム毒性に対するセレンウムの作用
(第2報) 岡本 博、○井上和美、岩田平太郎
(阪大・薬・薬理)

休 憩

特 別 講 演

- 18:00~14:00 座 長 館 正 知 (岐大・医・公衛)
重金属化合物の人体への蓄積
神戸大学医学部教授 喜田村 正 次

吸収・分布・代謝

- 16:20~17:00 座長 河合清之(労衛研)
 柏谷豊(東大・薬・薬害研)
- 124 プロカインの毒性と脳内濃度——肝アリルアミダーゼ
 の影響について……………○諸井佳代子、佐藤哲男、久我哲郎
 (千葉大・生物活研・薬理活性)
- 125 皮膚吸収によるm-ジニトロベンゼン中毒……………○石原信夫、池田正之
 (東北大・医・衛生)
- 126 ^{14}C -グルタミン酸ソーダによる放射能のマウス新
 生子脳内への移行と分布……………○井上稔、川端優男、村上氏広
 (愛知・心障コロニー・発達障害研)
- 127 Fluocortoloneの経胎盤移行と口蓋裂との関
 連……………江角吉造、○巴山潤吉、児玉直己、荒
 尾宜一郎 (日本シェーリング・研)

第 二 会 場

作用機序

- 9:30~10:50 座長 藤村一(岐大・医・薬理)
 今道友則(日本獣畜大・家畜生理)
- 201 組織呼吸とアルント・シュルツの法則……………松本保久 (鹿児島大・医・一生理)
- 202 窒素酸化物および光化学オキシダントの生体作用に
 ついて……………中島泰知
 (大阪府・公衛研・公害衛生)
- 203 スズメバチ毒素の部分精製と作用について……………○堀真一郎、川合述史、丹羽昭子、
 大谷幸子 (東京都・神経研)
- 204 蛇毒による漏出性出血の機序……………逢坂昭 (国立予研・細菌Ⅱ)
- 205 肝マイクロゾームの障害に関する研究——四塩化炭素
 肝障害におけるポリゾーム構造・蛋白合成能および
 関連諸酵素活性の変動……………○伊藤照夫、佐藤憲雄、上野芳夫
 (東京理大・薬・微生物化学)
- 206 男性ホルモンによるラットの心筋炎特に作用機序と
 種属差について……………○今井清、林裕造
 (食品薬品安全センター)
 中村裕、河野昌雄 (塩野義研)
- 207 数種 Aminoglycoside系抗生物質の筋弛緩作
 用機構……………○飯塚宏美、島田瞭、柳田知司
 (実験動物中央研・薬理)

休 憩

実験方法論

- 11:00~12:00 座長 柳田知司(実験動物中央研・精神薬理)
沢田英夫(岐薬大・生化学)
- 208 実験動物における血清および組織脂質成分の分離・
定量(第1報)Thinchromographによる血清脂
質成分の分析 ○穴戸信之、磯部竹雄、堀井郁夫、宇
高奎二
(日本ロシュ・リサーチ・毒性病理)
- 209 実験動物における血清および組織脂質成分の分離・
定量(第2報)実験動物病態モデルを用いた組織脂
質成分の分析 ○堀井郁夫、穴戸信之、宇高奎二
(日本ロシュ・リサーチ・毒性病理)
- 210 直腸内投与による制癌剤¹¹FT-207¹²のラット
における毒性試験 ○森田健一、片山茂紀、滝川勝雄
(大鵬薬品・技術研・薬理)
- 211 薬物による動物視聴覚障害のオペラント行動的検出... ○安東 潔、柳田知司
(実験動物中央研・精神薬理)
- 212 過密環境と金属の微量投与がマウスの運動量に及ぼ
す影響 星島啓一郎 (福島医大・衛生)

休 憩

組 織

- 14:10~15:20 座長 松山春郎(東京都精神科学研・神経病理)
石川栄世(慈恵医大・病理)
- 213 Tri-butyltin chloride(TBTC)
経口投与による神経組織の病理組織学的研究 ○岩崎 勇、舟橋紀男、樋泉真一、井
出源四郎 (千葉大・医・病理)
- 214 Tri-butyltin oxideの慢性毒性試験一特
にホルモン諸臓器の病理組織学的変化について ○舟橋紀男、岩崎 勇、樋泉真一、井
出源四郎 (千葉大・医・病理)

- 215 Tri-butyltin oxideの経口投与による急性毒性試験——特にラットのホルモン諸臓器の病理組織学的変化について……………○樋泉真一、岩崎 勇、舟橋紀男、井出源四郎 (千葉大・医・病理)
- 216 培養神経組織に対する有機スズの影響……………○小川恵弘、千葉厚子、松山春郎 (東京都・神経研・神経病理)
- 217 マウス骨髄のmicronucleiについて……………○金津赫生、民谷さち子 (日本ロシュ・リサーチ・毒性病理)
- 218 腎近位主部尿管上皮のライソソームにおよぼすcephacetrileの影響について……………○田中寿子、渡辺満利 (実験動物中央研・病理毒性)
鈴木昭男 (慈恵医大附置研・形態)
石川栄世 (慈恵医大・病理)

休 憩

発癌・アレルギー・依存性

- 15:30~16:30 座長 大森義仁(国立衛試・薬理)
江田昭英(岐阜大・薬理)
- 219 グリセオフルビンのヒト細胞に対する影響……………○難波正義、木本哲夫 (川崎医大・実験病理)
- 220 ラット・モルモットの発癌種属差と肝リソゾーム酵素の変動……………○高橋 惇、大森義仁 (国立衛試・薬理)
馬淵基樹(聖マリアンナ医大・中検)
袖本幸男、榎本 真 (同・二病理)
- 221 動物実験による薬剤アレルギーの成立機序に関する研究—(1)薬剤投与初期における免疫応答について……○笠巻明子、古屋宏二、金光正次 (札幌医大・衛生)
- 222 接触性皮膚過敏症を対象とした薬物アレルギーに関する実験的研究……………○片野田 繁、服部好伯、江田昭英 (岐阜大・薬理)
- 223 実験的クロルフェノチアジン系薬物肝障害における免疫学的アプローチ(第1報)……………○古屋宏二、笠巻明子、金光正次 (札幌医大・衛生)
奥山富三 (同・病理)
- 224 サル薬物依存実験においてみられる薬物の一般毒性…柳田知司 (実験動物中央研・精神薬理)

標 的 臓 器

16:30~17:00

座 長 塚 田 裕 三(慶大・医・生理)

鶴 見 介 登(岐大・医・薬理)

- 225 がん化学療法の標的臓器における毒性と効果 …………… ○豊島 滋、藤田晴久、瀬戸淑子、永沼真理子、福島祐司
(慶大・医・薬化学研・化学療法)
- 226 Methylazoximethanol(MAM)のラット
胎仔及び生後発育に及ぼす毒作用について……………松谷天星丸、○田丸政男
(名保衛大・総合医科学研・発達生理)
塚田裕三 (慶大・医・生理)
- 227 急性薬剤性肝障害時のIndocyanine Green
(ICG)の体内動態 …………… ○高山 敏、小野寺 威、秋元 健
(第一製薬・研)

一般会員の方へ

1. 受付（1フロビー）で氏名・所属・住所などの記入をお願いします。
2. 会場費1,500円を受付で頂戴いたします。
3. 年会費未納の方及び入会希望の方は別の受付で手続きを済ませて下さい。
（入会金1,000円、年会費3,000円）

口演者の方へ

1. 演題が予定より多くなりましたので、口演は一題につき8分程度でおさめて下さい。
2. プロジェクターは各会場とも1台です。スライドはなるべく早く各会場の受付に提出して下さい。
3. 演説終了後、The Journal of Toxicological Sciences掲載用の1,000字以内の抄録を座長に提出して下さい。なるべく英文でお願いします。（この場合は日本語1,000字分を英訳した長さにして下さい）

座長の方へ

1. 演題1題につき10分程度の時間を準備しています。進行についてはお任せします。活発な討論をひき出して下さい。
2. 討論の記録はとりませんので、その内容を受持演題全体で800～1,000字程度にとりまとめて下さい。The Journal of Toxicological Sciencesに掲載します。

会場案内図

○新岐阜駅から

バス ②番のりば 快速西大垣行、名神大垣行（県庁経由）岐阜歯科大行
県庁行・岐阜バス 県庁前行・名鉄バス
加納島線・2県庁前行・市営バス 約10分
（60円）岐阜産業会館下車 徒歩3分
タクシー 約5分（約500円）

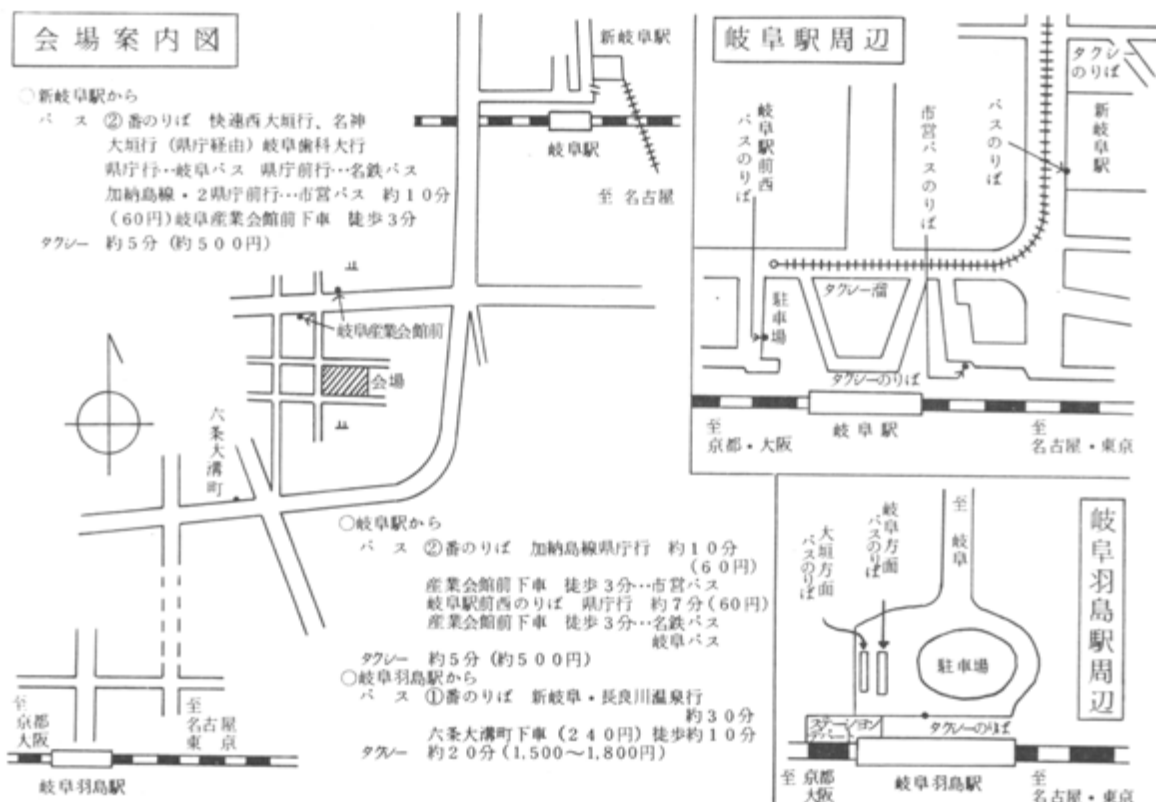
○岐阜駅から

バス ②番のりば 加納島線県庁行 約10分（60円）
産業会館前下車 徒歩3分・市営バス
岐阜駅前西のりば 県庁行 約7分（60円）
産業会館前下車 徒歩3分・名鉄バス
岐阜バス

タクシー 約5分（約500円）

○岐阜羽島駅から

バス ①番のりば 新岐阜・長良川温泉行 約30分
六条大溝町下車（240円）徒歩約10分
タクシー 約20分（1,500～1,800円）



第3回毒作用研究会御案内

第3回の毒作用研究会を下記のように開催いたしますので、多数参加されますよう御案内申し上げます。

昭和51年7月

第3回毒作用研究会集会幹事
東京大学薬学部 粕谷 豊

記

1. 日 時：昭和51年11月24日（水）午前9時30分より
2. 会 場：社会文化会館ホール 東京都千代田区永田町1-8-1 TEL (03)580-1171
3. 演題申込：1) 締切9月30日（木）
2) 演題申込書（別添、コピー使用も可）と講演内容の区分のための400字以内の抄録
なお、講演には2会場を用意してありますが、演題の申込が多数の場合には、やむをえず次回にまわさせていただくことがありますので御了承ください。
4. 発表形式：1) 講演時間は1題10分、討論5分の予定です。
2) スライドはライカ判、画面は横型とし、プロジェクターは1台です。
5. 会 費：会場費、通信費として当日1,500円頂戴します。
6. 評議員会：学会当日昼食時に評議員会を行ないます。
7. 演題申込先：（〒113）東京都文京区本郷7-3-1

東京大学薬学部毒性薬理学教室
担当 渡辺 稔
電 話 (03) 812-2111 内線7910

なお、本会入会希望者は下記に申し出て下さい。

The Journal of Toxicological Sciences の投稿資格と雑誌の送付があります。

入会申込先 毒作用研究会庶務幹事 村野 匡
（〒640）和歌山市9-9 和歌山医科大学内
電 話 (0734)31-2151

入会金：1,000円 年会費：3,000円、評議員 5,000円

.....切.....取.....線.....

第3回毒作用研究会演題申込用紙

機 関 名	
英 文	
氏 名 <small>かりがな</small> <small>(演者○印)</small>	
英 文	
演 題	
英 文	
希望する演題区分	実験方法論、標的臓器、作用機序、吸収、排泄、分布、代謝、依存性、アレルギー、発癌、組織変化、天然物、農薬、重金属、その他()